

教科 ／科目	学年	単元名	単元の目標	授業担当者	指導・助言者
国語科 ／国語	中学1年	振り返ってみつめる	<p>(1) ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について、理解することができる。〔知識及び技能〕</p> <p>(2) ・「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>・「読むこと」について、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>(3) ・進んで文章の構成や表現の効果捉え、学習課題にそって考えを伝え合うことができる。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>	伊藤 望	谷口直隆 先生 (広島修道大学准教授)
社会科 ／社会	中学2年	幕府政治の展開と衰退	<p>(1)社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解できる。〔知識及び技能〕</p> <p>(2)改革の必要性とそれに伴う民衆の行動を課題として設定することで、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、その課題について、多面的・多角的に考察・表現できる。〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>(3)各時代の特色を大きく捉え、政治の展開・社会の様子など他の時代との共通点や相違点に着目して、学習した内容を比較したり関連付けたりするなどして、その結果を言葉や図などで表したり、互いに意見交換したりすることにより、学びに向かう力を喚起できる。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>	伊藤 真	永田成文 先生 (広島修道大学教授)
数学科 ／数学 I	高校1年	数学 I 第 4 章 「図形と計量」 第 1 節 「三角比」	<p>(1) ・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解することができる。〔知識及び技能〕</p> <p>・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解することができ、鋭角の三角比を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解することができる。〔知識及び技能〕</p> <p>(2) ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現することができ、定理や公式として導くことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>・三角形の角の大きさなどを用いて計量を行うための数学的な見方や考え方を身に付けることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>(3) ・鋭角及び鈍角の三角比や図形との関係に感心を持ち、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識することができ、具体的な事象の考察に積極的に活用することができる。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>	北尾 和哉	井上昭彦 先生 (広島大学教授)

教科 ／科目	学年	単元名	単元の目標	授業担当者	指導・助言者
理科 ／物理基礎	高校1年	仕事と力学的エネルギー	<p>(1) 物体の運動とエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けることができる。〔知識及び技能〕</p> <p>(2) 物体の運動とエネルギーについて、観察、実験などを通して探究し、運動の表し方、様々な力とその働き、力学的エネルギーにおける規則性や関係性を見いだして表現することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究することができる。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>	廣兼 宗諒	池田幸夫 先生 (元 広島修道大学教授)
英語科 ／コミュニケーション英語Ⅱ	高校2年	Lesson 9 The Long Voyage Home	<p>(1) 英文を単語ではなく意味のかたまりで認識し、英文の展開や意図を把握するとともに、概要や要点、詳細についても目的に応じて捉えることができる。〔知識及び技能〕</p> <p>(2) 自分で調べたり、仲間と共有したりした情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり伝えあったりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>(3) 英語を使って自分の想いや考えを表現するだけでなく、他者への理解や異文化理解・尊敬の気持ちを持ち、これらを踏まえたうえで、積極的に英語でコミュニケーションをとることができる。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>	日高 有太	戸出朋子 先生 (広島修道大学教授)
探究科	高校2年	商圈からみた店舗の立地	<p>(1) 地域や社会のもの、ことに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けることができる。〔知識及び技能〕</p> <p>(2) 地域や社会のもの、ことと自分自身との関わりから見出された課題に対して、その解決に向けて情報を集め、分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ、表現する力を身に付けることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>(3) 地域や社会のもの、ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、社会に貢献しようとする態度を育てることができる。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>	明見 翔	木原一郎 先生 (広島修道大学准教授)